

肥前地区の焼きものの魅力発信と需要創出のための活性化事業

佐賀県陶磁器商業協同組合主催「肥前・有田 箸置きプロジェクト」の事業化支援

浜野 貴晴

promoduction(プロモダクション) 代表 / 佐賀県窯業技術センター 外部アドバイザー



「肥前・有田 箸置きプロジェクト」
公式ビジュアル

1. 目的と経緯

有田町および近隣の陶磁器商社で構成される佐賀県陶磁器商業協同組合は、「肥前・有田 箸置きプロジェクト」を立ち上げ、今年度キャンペーン事業として「肥前・有田 箸置きを使おうキャンペーン」を令和元年10月4日(陶器の日)より実施、組合員20社が参加した。当該プロジェクトのクリエイティブ・ディレクターに浜野が就任し、事業計画の立案および事業内容のディレクションを行った。

肥前・有田 箸置きプロジェクトは、日本の食文化における「箸置き」の意義を見直し、日々の食卓で箸置きを使うことによる、丁寧な暮らしを提案する取組である。

「箸置き」をキーアイテムとして、有田焼をはじめ、肥前地区の陶磁器(伊万里焼/唐津焼/肥前吉田焼/波佐見焼/三川内焼等)の紹介を通じて、作り手が生み出す多種多様な表現の焼きものの魅力を発信することとし、SNSを活用し、新たな顧客へのアプローチを試みるとともに、肥前地区の陶磁器のファン獲得を目指した。

また専門家による箸置きを使った学校給食でのマナー

講座等、箸置きの使用を促進する様々な活動を行ない、将来の需要創出につなげる日本の食・器文化の啓蒙活動に努めた。

2. 実施期間と主なスケジュール

令和元年8月～11月(立ち上げからの実働期間)
～ 令和2年3月(プロジェクトの紹介・告知のみ継続)

7月26日	プロジェクトの実施に関する組合員へのキックオフミーティングの開催
9月1日	Instagram運用開始
10月4日	「陶器の日」にプレス発表を行い、プロジェクトの正式スタートを告知
11月8日	有田小学校にて「卓育授業」を開講
11月20日～24日	「肥前・有田 箸置き市」の開催
11月22日	有田小学校の「誕生給食会」にて、箸置きの使用体験開始
12月20日	プロジェクト報告会

3. 事業概要

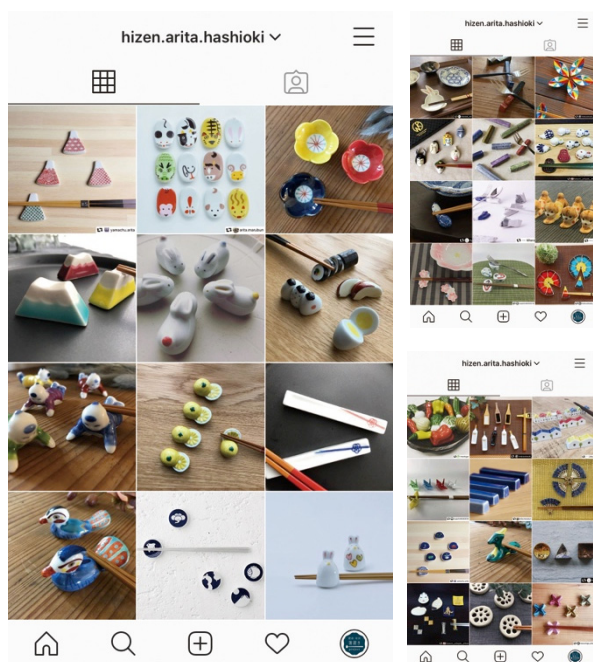
(1) SNS による情報発信

■ 公式インスタグラム

(肥前・有田箸置きプロジェクト : @hizen.rita.hashioki)
 インスタグラムにて各組合員が取り扱う「箸置き」の画像を集約し、産地内の箸置きを網羅したカタログのようなアカウントページを構築した。

多種多様な肥前地区の箸置きの「可愛らしさ、美しさ、面白さ」をアピールし、フォロワーの獲得および情報提供の実施、ファンづくりに努めた。(フォロワー数:439/令和2年3月17日時点)

各組合員は、自社のインスタグラムのアカウントに当キャンペーンのハッシュタグ「#肥前有田_箸置きを使おう」をつけた箸置きの画像を投稿し、公式アカウントがリポストを行うかたちでの公開を基本とした。



公式インスタグラム

■ 公式フェイスブック

(肥前・有田箸置きプロジェクト : @hizen.rita.hashioki)
 インスタグラムと連動させ、公式フェイスブックページにて当プロジェクトの紹介、キャンペーン事業やイベント等の告知を行った。

メディアでの紹介など掲載実績についても随時紹介し、活動効果の見える化に努めた。

(2) 「肥前・有田 箸置きを使おう」キャンペーンの実施

■ 学校給食で箸置きを使おう

共催 : 有田町

協力 : NPO 法人 食空間コーディネーター協会

実施期間 : 令和元年11月から実施

有田町立有田小学校と連携し、日本の食文化における器やお箸などについて考え、学校給食で実際に箸置きの使い方を学ぼうという企画である。

NPO 法人食空間コーディネーター協会公認の卓育インストラクターによる、家族で囲む食卓の楽しさ、食文化、感性、思いやり、もてなしの心を育む「卓育授業」を開講した。

KBC 九州朝日放送や NHK 佐賀放送局、STS サガテレビなど4社がニュース番組等にて当該事業を取り上げた他、佐賀新聞、西日本新聞、読売新聞など多数の紙面、WEB ニュースにて複数回紹介された。

《具体的な実施内容》

● 有田小学校での「卓育授業」の開講

- ・有田小学校にて、食空間コーディネーター協会九州支部長の平田美鈴氏による「卓育授業」を開講した。
- ・4年生を対象として11月8日(金)の4時限目に「箸置きを使おうー箸の使い方／箸と箸置きと食卓の関係ー」をテーマに授業を実施し、その後の給食にて、箸置きを実際に使って食事してもらった。



卓育授業の様子

- 有田小学校の「誕生給食会」での箸置き体験学習
- ・ 有田小学校にて隔月開催している「誕生給食会」において、児童および保護者、先生方参加のもと実際に「箸置き」を使ってもらうとともに、箸置きの意義について紹介し、体験学習してもらった。
- ・ 第1回目として、11月21日(木)の給食時に実施、以後継続して開催している。

- 有田小学校への「箸置き・スプーンレスト」の寄贈
- ・ 「誕生給食会」等で使用する「箸置き・スプーンレスト」は、佐賀県陶磁器商業協同組合および組合員より有田小学校へ寄贈された。

■ 肥前・有田箸置き市

共催：有田焼卸団地協同組合

開催期間：令和元年11月20日(水)～24日(日)

有田のちやわん祭り、秋の有田陶磁器まつり期間中、有田焼をはじめ肥前窯業圏にて作られた箸置きを一堂に集めた「肥前・有田 箸置き市」をアリタセラ内のギャラリー青磁、及び有田町内の組合員店舗等にて開催した。

アリタセラでは、300種類におよぶ箸置きの展示販売とともに、箸置きを使うことの意義を紹介するパネル展示、さらに窯元の協力のもと、製造工程を紹介する写真パネルや生地成形に用いる石膏型や素焼き生地なども展示し、ものづくりについても伝えることに努めた。期間中、約1000個の販売実績を生むとともに、来場者から箸置き選びを楽しむ声が多数上がる盛況ぶりであった。



「肥前・有田 箸置き市」の会場風景



300種類におよぶ箸置きを商品ごとに展示

成形型や素焼き生地なども展示し、製造工程を紹介

3. 次年度以降の将来的な事業展開

日常の食卓で箸置きを使うことが少なくなっている昨今だが、食卓に直に箸を置くことは衛生的にもよくなく、とはいえ、お茶碗などに箸を置く「渡し橋」は、マナー違反とされている和食の文化において、箸置きを使う意義は、当該事業を通じて再認識すべき大切なものと感じた。

次世代を担う特に有田焼産地の子供たちには、箸置きを日常的に使うことが当たり前と思ってもらえるよう、継続的な有田町での活動とするとともに、今後は「卓育授業」をさらに全国に広げていきたいと組合と検討している。

当プロジェクトは、多くのメディアで紹介されるなど、今年度事業の盛り上がりやその成果が内外から高い評価を受け、次年度以降も数年間の継続を計画している。「箸置きを使おう」をキャッチコピーとした消費地での展示販売会イベント、箸店でのポップアップショップなど、組合員の事業展開にも柔軟に活用できる仕組みの構築を目指す。

4. 特筆すべき成果

- 同業者が集まり、新たな需要創出のためのプロジェクトを共同実施することで、1社では達成が難しい費用対効果を生みだすスケールメリットを実証した。
- 「肥前地区の焼きもの認知のための取り組み」、「食・器文化の普及に繋がる啓蒙活動」、「直接的な収益を生む展示販売」をセットにして行うことによるメディア等からの取材実績、WEBサイトのアクセス数、SNSなどのコメントやロコミの増大といった実施効果を高めるとともに、その見える化に努めた。
- 実績が伴うことで事業を実施することの意義が再確認され、事業への参画意識や継続していこうというモチベーションの向上に繋がった。